

**「米軍基地使用には必ずしも同意しない」と今から米に伝えよ**

　 ―日米事前協議がカギ

**第１８９回**

**憲法ひろば**

第**216**号

**4月15日**

**２０２３年**

**発行:調布九条の会「憲法ひろば」**

----------------------------------------------------------

〒182-0022 調布市国領町2-5-15 あくろす2階

 市民活動支援センター内メールボックス６番

-----------------------------------------------------------

郵便振替**00170-6-445473** 加入者名**大野哲夫**





　調布｢憲法ひろば｣は4月8日(土)、たづくり1002学習室で第189回例会を開催。｢安保３文書と日米同盟の今後にどう向き合うか」というテーマで新外交イニシャティブ（ＮＤ）代表の猿田佐世さん**(左写真)**をお招きして「戦争を回避せよ」との力強い提起をいただきました。参加は46人(内ズーム参加8人)。進行は石山久男世話人**(右写真)**、記録は三浦久美子世話人が担当しました。

　　　　　　**(編集部)**

**E-Mail：choufu9jou@yahoo.co.jp**

**WEBサイトhttp://choufu9jou.sakura.ne.jp**

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*



**安保３文書と日米同盟の今後にどう向き合うか**

**戦争を回避せよ**

**日本がおかれている状況**

　マイクトラブルで、講演開始が20分近く遅れたため、参加者が聞きたい項目を確認し、安保三文書改訂の内容についてはさらっとふれて、スタート。

　台湾有事を理由に、日本が敵基地攻撃能力を持ち、防衛費を倍増したが、冷静に考えると日本一国だけでは戦争にはならない。しかし「防衛装備移転」推進として、武器輸出を推進する。

　米軍と自衛隊の一体化が加速し、民間の空港や港湾の柔軟な使用も可能になる。日本の敵基地攻撃能力を、米軍が補佐する形で、安保能力を高める方向。米国は力を落としており、主たる対中戦略は同盟国との連携に頼る「統合抑止」をめざしており、日本は自発的対米従属状態になる。

**二つの愚かさ**

**◇愚かさ１◇**

**自分たちへの影響を語らない愚かさ**

　例えば、防衛研究所報告書では、ミサイル攻撃を阻止することは困難としながら、民間人の被害には触れていない。沖縄などでは、基地や自衛隊の病院の一部を地下化し、避難計画もたてたが、避難に必要な輸送能力は把握できていない。

　経済的にも、中国との貿易に頼っているため、経済制裁もできない現状にある。

**◇愚かさ２◇**

**中国に軍事力のみで対抗しようとする愚かさ**

　日本の軍事力は世界で５番目とする研究もあり、倍増すれば３位になるが、それでも中国の５分の２。さらに、アメリカがウクライナ戦争に介入していないことをみれば、台湾有事でアメリカが介入するとは限らない。

**政策提言**

**戦争を回避せよ**

**◇台湾有事を回避するために、今から展望をもった外交を◇**

安全保障政策の目標は戦禍から国民を守ること、即ち、戦争回避でなければならない。軍事力による抑止は、相手の対抗策を招き、無限の軍拡競争をもたらすとともに、抑止が破綻すれば、増強した対抗手段によって、より破滅的な結果を招く。戦争を確実に防ぐためには、抑止とともに、相手が戦争してでも守るべき利益を脅かさないことによって戦争の動機をなくする「安心供与」が不可欠だ。

　米軍の日本からの直接出撃は事前協議の対象となっている。これを梃子として、アメリカに対しては、過度の対立姿勢をいさめるべく、台湾有事には必ずしも「ＹＥＳ」ではないことを伝えることができる。

**日本の外交のモデルに米中対立の主戦場東南アジアを**

　ＡＳＥＡＮ（東南アジア諸国連合)の外相会議では、南シナ海の問題をめぐり、米中対立が軍事的レベルにまで高まっていることについて議論を重ね、「ＡＳＥＡＮは地域の平和と安定を脅かす争いにとらわれたくはない」と自制を促すメッセージを発し、シンガポールのリー・シェンロン首相は「アジア諸国はアメリカはアジア諸国に死活的に重要な利害を有する『レジデントパワー』だと考えているが、中国は目の前に位置する大国だ。アジア諸国は、米中のいずれか一つを選ぶという選択を迫られることを望んでいない」と発言。

日本はアジアの中で大国ぶるのではなく、ＡＳＥＡＮに学ぶことが大切だ。

 **（三浦久美子･記）**

**新外交イニシャティブ(ND)代表**

**猿田 佐世さん**

**お話：**



